

八代市男女共同参画推進情報誌

Mi★Rai



みらい

第14号

特集

私の職場はイイ職場♪

～男女がともに輝く職場インタビュー～

働き手となる人材が不足しているといわれている昨今、女性の活躍だけでなく、男女がともに支えあい活躍することは大切なことです。

今回の特集は、「男性の多い職場で働く女性」や「女性の多い職場で働く男性」に、職場のことや仕事内容などについてインタビューを行いました。

職業に対する「固定観念」について考えるきっかけになれば、と思います。



CONTENTS ●特集 私の職場はイイ職場♪ ●シリーズ「キラット☆さん」 ●お知らせ

私の職場は **イイ職場**

～男女がともに輝く職場インタビュー～

**男性が多い
職場で働く女性**

イチゴのスペシャリスト

J A やつしろ 営農指導員

榎田 光笑さん



仕事について教えてください。

私は、イチゴの営農指導を担当しています。営農指導員は、農業の技術・経営指導、新しい品種や技術の情報提供など、営農支援のための様々な活動を行っています。担当しているすべてのイチゴ農家の状況を把握

するため、苗作りから収穫、出荷まで一年中、足を運んでいます。

この仕事を選ばれたきっかけを教えてください。

イチゴの営農指導員になって約10年になります。イチゴの営農指導を選んだのは、「汚れないかも」と思ったからです（笑）。そんなところから始めたので、最初の2年間は、イチゴのことを勉強しようと、知り合いにお願いして、定植などを手伝わせてもらいました。

仕事をしていてよかった、と思うことはありますか？

J A やつしろの営農指導員48人中、女性は3人と少ないです。男性の営農指導員が大半なので、「女性で大丈夫か」という気持ちを最初は持たれたと思います。でも、今では「よかいちゴの採れたよ」と言ってもらえると、うれしくて、仕事にや

りがいを感じています。

同じ道を目指す人にメッセージをお願いします。

女性の営農指導員は少ないですが、女性だから大変だということはありません。人と人の繋がりが一番の魅力で、大切にしていきます。

あと、県産いちごの新品種「ゆうべに」が、今イチオシです。ぜひ食べてみてください！



3児のお母さん

神園タクシー ドライバー

村本 明日香さん

女性のタクシードライバーは 何人いますか？

私が勤める会社には、私以外に2人いて、そのうち1人は、10年ほど勤務しています。他の会社にも2人ほどいらっしやるようです。

この仕事を選んだきっかけを教えてください。

もともと運転することが好きで、配送関係の仕事を探していたんです。でも、なかなか見つからない中で、別のタクシー会社に務めました。そこでは当直勤務があり、育児のこともあったので、今の会社に転職しました。

今の職場ではどのように勤務されていますか。

会社の基本的な勤務時間は7時30分～16時30分ですが、私は、保育園の送迎の時間に合わせて8時～17時にしてもらっています。夜勤はありません。こういった配慮もあって子育てしやすい環境です。自宅も近い



ので、昼休みに夕食の準備ができますし、子どもの学校も近いので、急なことにも対応できています。

私の勤務内容は、ほとんどが病院の送迎です。土日は、病院が休みなので、それに合わせて、土日はできるだけお休みにしてもらっています。

女性ドライパーへの反応はどうですか？

多くのお客さんが、「あらっ」と驚かれます。女性ドライパーがいることをもつと知ってもらいたいです。私は夜勤がないので、小さな子どもがいても安心して働いています。きついとは感じませんね。

これからの目標などありますか？

しばらくは、このまま働きますが、下の子が大きくなったら、夜も運転したいと思っています。これからも、子どもたちと一緒に頑張っていきます。



**女性がが多い
職場で働く男性**

若き看護リーダー
熊本労災病院 看護師



村田 英徳さん(右)
高村 敦史さん(左)

2人の職場について教えてください。

村田 私は、外来に勤務しています。54人中男性は2人です。看護師長補佐として、救急外来を専門に担当しています。

高村 私は、ICU(集中治療室)で重篤な機能不全の患者

さんを集中的に治療看護する部門に勤務しています。24人中男性5人と比較的男性の比率が高く、知識と高度な技術力が問われるセクションで、チームリーダーを任されています。

2人が看護師を目指した理由を教えてください。

村田 私は、高校時代に看護ボランティアを体験する機会があり、その時、看護師の仕事に触れ、相手に寄り添う姿勢に強い魅力を感じました。高校卒業後、看護学校、短大と進みましました。

高村 友人のお母さんが看護師だったんですが、その人から強く勧められたのがきっかけです。高校卒業後、看護師の専門学校に入りました。

2人 私たちのところは、男性の看護学生はとも少なく、男子寮がなかったんです。通学とか、女子に比べて不便でしたね(笑)。

看護師になってどうでしたか？

やはり、患者さんから感謝さ

れ、必要とされ、頼りにされるのが嬉しいです。慎重さが求められる仕事ですが、とても生きがいを感じます。女性の患者さんの看護の際は、入室からケアまで十分な気配りをしています。

熊MEN・S倶楽部というチームがあるそうですね？

男性看護師間のコミュニケーションなどを図る目的で、平成23年に当時の看護師長の提案から発足しました。懇親はもちろん、情報の共有など、交流する良いきっかけになっていると思います。

同じ道を目指す人にメッセージをお願いします。

看護師の仕事に男女の区別はありません。人と接し命と向き合う職場で働くことの、喜びや感動を共有してほしいです。男性看護師、募集中です！



3児のお父さん
川岳保育園 保育士

緒方 貴久さん

職場について教えてください。

川岳保育園では、生後3カ月から小学校入学前の6歳までの約60人の園児を預かっています。保育士は全員で12人ですが、男性は私1人だけです。勤務は平日の日勤と土曜の半日勤、休日は日曜と祝祭日のカレンダーどおりです。

保育士という職を選んだのはなぜですか？

両親が共働きで、4人きょうだいの末っ子だったので、親代わり姉に面倒を見てもらっていました。私も小さい頃から子どもが好きで、近所の子の面倒をみたりしていました。

女性がが多い職場は大変ではありませんか？

特に大変と感じたことはありません。むしろ女性同士では言えないことを率直に話し合えたり、力仕事で重宝されたり

します(笑)。

仕事上、心掛けていることはありますか？

昔と比べて、子どもの体力が落ちてきたように感じます。園では、思い切り身体を動かしたり、屋外でのウォーキングを取り入れたりしています。

子どもは純粋で、保育者の本質を見抜く力があります。できるだけ真摯に、愛情をもって接するようにしています。

同じ道を目指す人にメッセージをお願いします。

給料は高くないかもしれませんが、子どもは将来の日本を支える宝です。共助の気持ちがあれば、地域とのコミュニケーションもあつて楽しい職場です。ぜひ、一緒に働きましょう。



シリーズ
キラリ☆さん

今回は、やつしろ助産師の会の、橋本さとみさんと宮川弘美さんです。



橋本さとみさん(写真左)

高校まで八代で暮らし、看護学校卒業後、助産師の資格を取得し、大阪や名古屋で助産師として病院助産院に勤務。平成27年、千丁町に助産院を開院。八代の女性に寄り添うことを目的に、「やつしろ助産師の会」を立ち上げ活動しています。

宮川弘美さん(写真右)

平成11年から市内の産院や病院に勤務し、結婚、出産を経て病院を退職。「やつしろ助産師の会」を橋本さんと一緒に立ち上げ、助産師、保健師の知識や経験を活かし活動しています。

◆どういった活動をされていますか？

主に産後のお母さんと赤ちゃんに寄り添った活動を行っています。赤ちゃんの沐浴^{もくよく}、おっぱいケア、育児相談、マタニティヨガや産前産後のヨガなどです。

◆「助産師」について、教えてください。

以前は、「助産婦」と言う呼び方でしたが、平成14年に「助産師」に変わりました。昔よく「お産婆さん」と言われた方に近いですが、国家資格が必要な専門職です。

多くの助産師は、産婦人科のある病院やレディースクリニックなどに勤務していますが、他の地域では助産院を開業し、病院と連携することで、自宅出産と産後ケアなどを行っている助産師さんもいらっしゃいます。

◆出産や育児について、どのようなことが必要だと思いますか？

出産や育児は、決してお母さんだけで行うものではない、ということをお父さんや周りの人たちが理解して、全面的に協力していくことが必要です。

初めての出産や育児の時は、本当に大変です。今は核家族が進んで

いて、退院後には自宅に1人きり、というケースも多くなってきているのではないのでしょうか。10人に1人の割合で「産後うつ」になるとも言われています。そういったお母さんたちを、お父さんやご家族が支えることがとても大事です。

そういったときに、私たちが少しでも支えになれば、と思っています。

◆これからの目標などを教えてください。

まずは皆さんに、助産師について広く知ってもらえるように、「やつしろ助産師の会」として活動を続けていきたいです。そんな中で、出産や育児だけでなく、子どもの成長や親御さんの介護の時に、「助産師さんにきてみよう」と言ってもらえるように、皆さんに寄り添える存在になりたいですね。

私たちの産後ケア活動を通して、八代の多くのお母さんたちをサポートしていきたい。そして、その繋がりが広がっていき、大きな輪になっていけば嬉しいですね。

お2人の活動は「やつしろ助産師の会」のフェイスブックでご覧になります。

スタッフ編集後記

- 今回新しく編集委員として参加し、皆様のひたむきさと情念に感動、深謝。(八鶴 良生)
- 様々な職種の方々を掲載できました。多くの学生に、将来の就職の参考になったらうれしいな。(井山 さおり)
- 編集に携わって2年、思いがけない人との出会いがあり、また新しい八代を発見したような気がします。ありがとうございました。(田口 美鈴)
- 約20年前、私の弟が看護師になった時は「えっ?何で?」と言われました。今は少しずつ増えていると聞き、男女共同参画を身近に感じます。(山本 真弓)
- 中学、高校時代は、柔道部で活躍した女性ドライバーの村本さん。はきはきとしたカッコいい女性でした。(賀久 小夜子)

男女共同参画推進事業

いっそD Eフェスタ2018

- とき 平成30年2月11日(日)
- ところ やつしろハーモニーホール
*入場無料 *託児あり(要予約)
- 内容
10:30 ワークショップ ハンドメイド品のフリーマーケット
13:30 講演「ご近所からはじまる!!
男女共同参画
～まちで輝く女と男～」
講師 フリーキャスター
堀尾 正明氏
- お問い合わせ
いっそD Eフェスタ実行委員会事務局
(人権政策課) Tel 0965-30-1701

